

# 米軍基地環境カルテ

八重岳通信所（施設番号：FAC6006）

沖 縄 県

## 改訂履歴

版数	発行年月	改訂内容
第1版	平成29年3月	初版発行
第2版	令和4年3月	「沖縄の米軍基地（平成30年12月沖縄県）」の内容を反映させた改訂。

年月日	頁	該当箇所	追補・変更内容
令和2年 3月20日	5-9	5.6 その他情報	『5.6 その他情報』に沖縄県が米国立公文書記録管理局(NARA)で収集した『表 5-3』を追加



# 目次

5. 八重岳通信所（施設番号：FAC6006）	1
5.1 基本情報	1
5.1.1 名称	1
5.1.2 所在地、広さ（施設面積）	1
5.1.3 施設の概要等	3
5.1.4 施設の管理及び用途	3
5.1.5 施設・区域の返還時期（見込み）、返還後の利用状況	3
5.1.6 土地利用規制図	3
5.2 基地内の環境汚染の可能性に関する情報	3
5.2.1 基地等の土地の状況	3
5.2.1.1 地形分類図	3
5.2.1.2 表層地質図	3
5.2.1.3 土壌図	3
5.2.1.4 切盛土分布図	3
5.2.2 基地内の施設の使用状況	4
5.2.2.1 施設配置図（埋設物含む）	4
5.2.2.2 施設等使用履歴	4
5.3 基地等の環境状況	4
5.3.1 自然環境（植物）	4
5.3.1.1 現存植生図	4
5.3.1.2 植生自然度図	4
5.3.1.3 特定植物群落	5
5.3.1.4 重要な種、貴重な種等	5
5.3.2 自然環境（動物）	5
5.3.2.1 重要な種、貴重な種等	5
5.3.3 水利用状況	6
5.3.3.1 水利用状況	6
5.3.3.2 井戸・湧水の分布状況	7
5.3.3.3 河川及びダムの分布状況	8
5.3.4 地下水の状況	8
5.3.4.1 地下水基盤面等高線図	8
5.4 当該施設及び周辺における環境関連事故等	8
5.4.1 事故等の概要	8
5.4.2 事故等発生場所	9
5.5 環境調査を実施する場合の留意事項	9
5.6 その他情報	9

5.7 環境等に関する通常監視について .....	9
---------------------------	---

## 5. 八重岳通信所（施設番号：FAC6006）

### 5.1 基本情報

#### 5.1.1 名称

八重岳通信所（施設番号：FAC6006）

#### 5.1.2 所在地、広さ（施設面積）

<昭和 47 年 5 月 15 日>

所在地：名護市、本部町

広 さ：約 198,300 m<sup>2</sup>

出典：外務省ホームページ「沖縄の施設・区域（5・15 メモ等）（仮訳）」（1972 年 5 月）

（[http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/usa/sfa/kyoutei/pdfs/02\\_03.pdf](http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/usa/sfa/kyoutei/pdfs/02_03.pdf)）を参照

<平成 30 年 12 月末現在>

所在地：本部町（字大嘉陽、字辺名地）、名護市（字勝山）

広 さ：37 千 m<sup>2</sup>

地主数：2 人

駐留軍従業員数：一人

出典：「沖縄の米軍基地」（平成 30 年 12 月、沖縄県知事公室基地対策課）より引用



図 5-1 八重岳通信所の位置図（平成 28 年時）

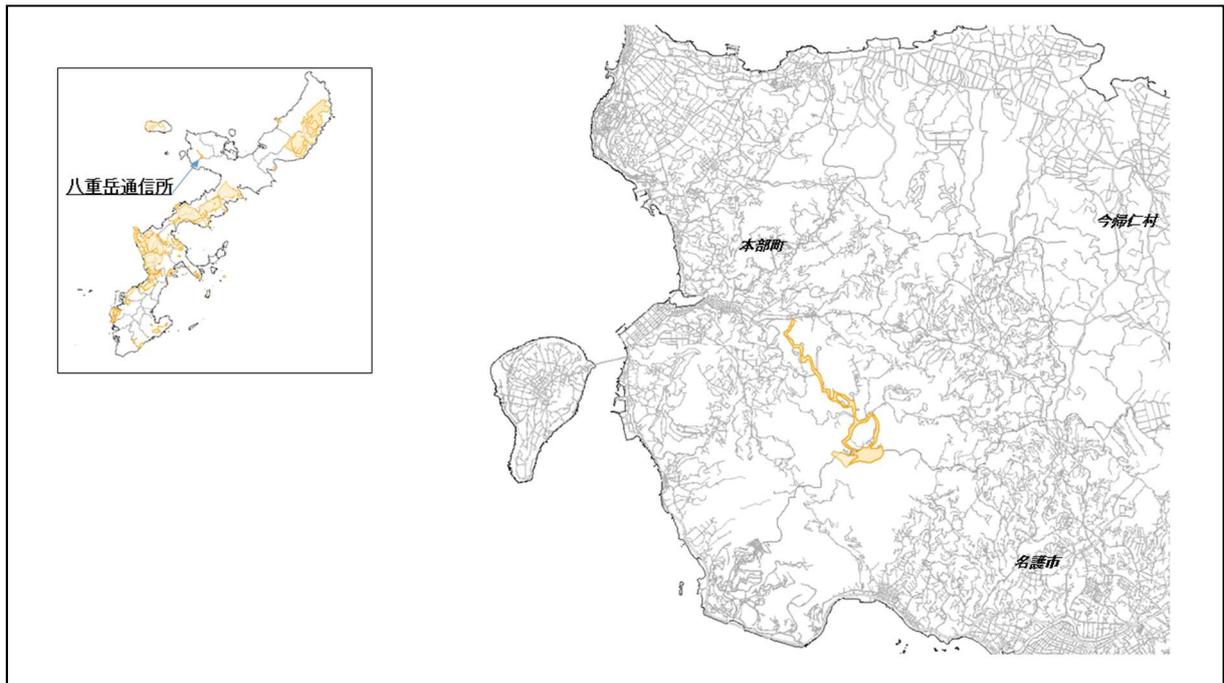


図 5-2 八重岳通信所の位置図（昭和 47 年時）



出典：「沖縄の米軍基地」（平成 25 年 3 月、沖縄県知事公室基地対策課）より引用

図 5-3 八重岳通信所の航空写真

### 5.1.3 施設の概要等

八重岳通信所は、八重岳の頂上付近に位置し、区域内には通信塔、通信室等が所在している。かつては陸軍第 58 信号大隊と空軍第 18 施設技術中隊が運営するマイクロ・ウェーブ及び対流圏散乱・送受信機があり、これを通じて沖縄と日本本土を結ぶ重要な通信機能を担っていたが、現在は沖縄県内の米軍施設を結ぶマイクロ中継タワー施設として利用されている。

なお、この施設は通信施設であることから、演習等を行われていない。

出典：「沖縄の米軍基地」（平成 30 年 12 月、沖縄県知事公室基地対策課）を参照

### 5.1.4 施設の管理及び用途

管理部隊名：第 18 航空団第 18 施設群、第 718 施設技術中隊

使用部隊名：第 18 航空団第 18 施設群、第 718 施設技術中隊、米国陸軍第 78 通信大隊

使用主目的：通信所

出典：「沖縄の米軍基地」（平成 30 年 12 月、沖縄県知事公室基地対策課）より引用

### 5.1.5 施設・区域の返還時期（見込み）、返還後の利用状況

<返還計画>

なし。

<跡地利用計画>

八重岳通信所の進入路沿いは桜の名所となっており、本部町は、平成 3 年 8 月に、八重岳返還軍用地跡地利用計画を策定した。

出典：「沖縄の米軍基地」（平成 30 年 12 月、沖縄県知事公室基地対策課）より引用

### 5.1.6 土地利用規制図

八重岳通信所及び周辺の土地利用規制図を図面集「[土地利用規制図A](#)」に示す。

## 5.2 基地内の環境汚染の可能性に関する情報

### 5.2.1 基地等の土地の状況

#### 5.2.1.1 地形分類図

八重岳通信所及び周辺の地形分類図を図面集「[地形分類図A](#)」に示す。

#### 5.2.1.2 表層地質図

八重岳通信所及び周辺の表層地質図を図面集「[表層地質図A](#)」に示す。

#### 5.2.1.3 土壌図

八重岳通信所及び周辺の土壌図を図面集「[土壌図A](#)」に示す。

#### 5.2.1.4 切盛土分布図

八重岳通信所の切盛土分布図は作成されていない。

## 5.2.2 基地内の施設の使用状況

### 5.2.2.1 施設配置図（埋設物含む）

八重岳通信所の施設配置図は確認できなかった。

### 5.2.2.2 施設等使用履歴

昭和 25 年	「八重岳通信所」として使用開始。
昭和 47 年 5 月 15 日	「八重岳通信所」として提供開始（使用主目的：通信所）。
昭和 52 年 2 月 28 日	施設管理権が陸軍から空軍に移管。
昭和 53 年 3 月 31 日	不要水道管用地約 8,000 m <sup>2</sup> を返還。
平成 5 年 11 月 4 日	マイクロ回線中継所用地として、海上自衛隊が共同使用を開始。
平成 6 年 9 月 30 日	土地約 192,000 m <sup>2</sup> （第 16 回安保協事案に北側部分を加えたもの）を返還。
平成 7 年 6 月 1 日	電力線路として、工作物（電力線路）を追加提供。
平成 8 年 7 月 26 日	倉庫として、建物約 30 m <sup>2</sup> と工作物（門等）を追加提供。

出典：「沖縄の米軍基地」（平成 30 年 12 月、沖縄県知事公室基地対策課）を参照

### <主要建物及び工作物>

建 物：通信施設、警衛所、倉庫、ポンプ室ほか

工作物：保安柵、上下水施設、貯槽、アンテナ、消火設備ほか

出典：「沖縄の米軍基地」（平成 30 年 12 月、沖縄県知事公室基地対策課）より引用

## 5.3 基地等の環境状況

### 5.3.1 自然環境（植物）

#### 5.3.1.1 現存植生図

八重岳通信所及び周辺の現存植生図を図面集「[現存植生図A](#)」に示す。

#### 5.3.1.2 植生自然度図

八重岳通信所及び周辺の植生自然度図を図面集「[植生自然度図A](#)」に示す。

### 5.3.1.3 特定植物群落

八重岳通信所及び周辺の特定植物群落を表 5-1 に示す。八重岳通信所及び周辺の特定植物群落として「嘉津宇岳、安和岳の古生層、石灰岩地植生」がある。

表 5-1 八重岳通信所及び周辺の特定植物群落

No.	名称	選定基準	相観区分	備考
1	嘉津宇岳、安和岳の古生層、石灰岩地植生	D, H	亜熱帯常緑広葉高木林	県指定天然記念物

◆ 特定植物群落の選定基準は以下のとおり。

A：原生林もしくはそれに近い自然林

B：国内若干地域に分布するが、極めて稀な植物群落または個体群

C：比較的普通にみられるものであっても、南限、北限、隔離分布等分布限界になる山地にみられる植物群落または個体群

D：砂丘、断崖地、塩沼地、湖沼、河川、湿地、高山、石灰岩地等の特殊な立地に特有な植物群落または個体群で、その群落の特徴が典型的なもの

E：郷土景観を代表する植物群落で、特にその群落の特徴が典型的なもの

F：過去において人工的に植栽されたことが明らかな森林であっても長期にわたって伐採等の手が入っていないもの

G：乱獲その他人為の影響によって、当該都道府県内で極端に少なくなるおそれのある植物群落または個体群

H：その他学術上重要な植物群落または個体群

出典：「自然環境保全基礎調査 特定植物群落調査報告書」（平成 12 年 3 月、環境庁自然保護局生物多様性センター）を参照

### 5.3.1.4 重要な種、貴重な種等

八重岳通信所及び周辺の重要な種、貴重な種等（植物）を表 5-2 に示す。八重岳通信所及び周辺の県指定天然記念物として「嘉津宇岳安和岳八重岳自然保護区」がある。

表 5-2 八重岳通信所及び周辺の重要な種、貴重な種等（植物）

No.	名称	所在地	区分
1	嘉津宇岳安和岳八重岳自然保護区	名護市、本部町	県指定天然記念物

出典：「～平成 27 年度版～文化財課要覧」（2015、沖縄県教育庁文化財課）を参照

## 5.3.2 自然環境（動物）

### 5.3.2.1 重要な種、貴重な種等

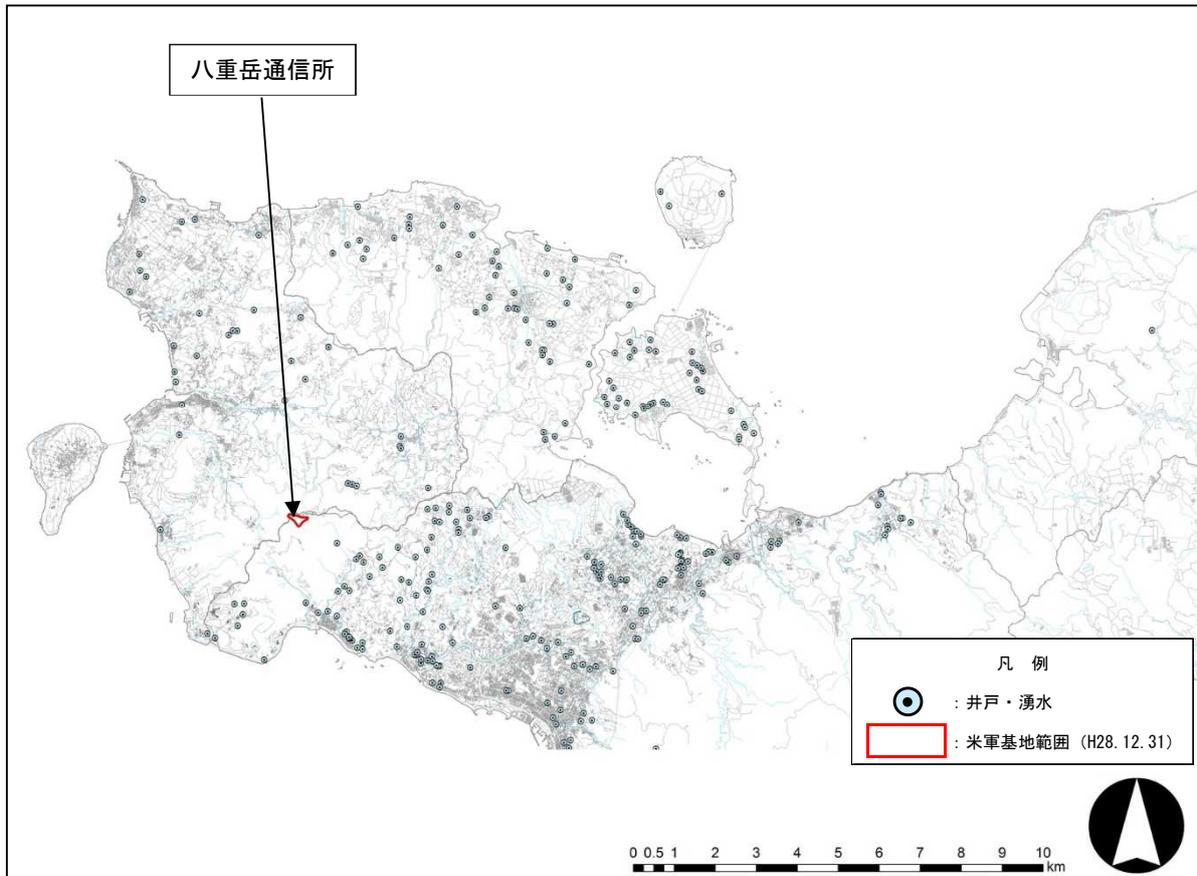
八重岳通信所のある名護市及び本部町で生息が確認された又は生息が可能或いは推定される、重要な種、貴重な種等（動物）は 59 種類いる。

出典：「自然環境の保全に関する指針 [沖縄島編]」（平成 10 年 2 月、沖縄県環境保健部自然保護課）を参照



### 5.3.3.2 井戸・湧水の分布状況

八重岳通信所及び周辺の井戸・湧水分布状況を図 5-5 に示す。



「この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の基盤地図情報を使用した。（承認番号 平成 29 情使、第 269 号）」

注：本図には、史書等より情報を得た井戸・湧水の位置も示されていることから、その存在や状態については、活用者が確認する必要がある。

出典：別途記載

図 5-5 八重岳通信所及び周辺の井戸・湧水分布状況

### 5.3.3.3 河川及びダムの分布状況

八重岳通信所及び周辺の河川、ダム分布状況を図 5-6 に示す。八重岳通信所及び周辺に、二級河川、準用河川、国・県管理ダムはない。



「この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の電子地形図（タイル）を複製したものである。（承認番号 平成 29 情複、第 301 号）」

出典：「国土地理院地図（平成29年3月）」、「国土数値情報のデータ（河川情報）」、  
「沖縄防衛局管内防衛施設図（米軍基地範囲）」（平成28年12月31日現在、沖縄防衛局）を参照  
図 5-6 八重岳通信所及び周辺の河川、ダム分布状況

### 5.3.4 地下水の状況

#### 5.3.4.1 地下水基盤面等高線図

八重岳通信所及び周辺の地下水基盤面等高線図は作成されていない。

### 5.4 当該施設及び周辺における環境関連事故等

#### 5.4.1 事故等の概要

八重岳通信所及び周辺における米軍の活動に起因する環境関連事故等の情報は、「沖縄の米軍基地」（沖縄県）、「環境白書」（沖縄県）では確認できなかった。

出典：「沖縄の米軍基地」（平成 15 年 3 月、沖縄県基地対策室）、  
「沖縄の米軍基地」（平成 20 年 3 月、沖縄県知事公室基地対策課）、  
「沖縄の米軍基地」（平成 25 年 3 月、沖縄県知事公室基地対策課）、  
「環境白書【平成 24 年度報告】」（2014、沖縄県環境部環境政策課）、  
「環境白書【平成 25 年度報告】」（2015、沖縄県環境部環境政策課）、  
「環境白書【平成 26 年度報告】」（2016、沖縄県環境部環境政策課）を参照

#### 5.4.2 事故等発生場所

八重岳通信所及び周辺における米軍の活動に起因する環境関連事故等発生場所の情報は確認できなかった。

#### 5.5 環境調査を実施する場合の留意事項

八重岳通信所において、基地内施設の使用状況及び配置等の基礎的な情報が詳細に把握できていないことから、当該施設の使用状況を踏まえて、環境調査の際には下記の事項に留意する。

- |  |
|--|
| 1 通信施設であることから、変圧器や電子機器の使用があると思われるため、PCBや有害金属について調査を行う。 |
| 2 污水处理がどのように行われたかについて確認し、水質及び土壌汚染調査を行う。                |

#### 5.6 その他情報

沖縄県が、米国立公文書記録管理局（National Archives and Records Administration, NARA）（以下「NARA」という。）で収集した在日米軍関係資料のうち、知念補給地区及び周辺に関する環境関連情報の概要を表 5-3 に示す。

知念補給地区及び周辺については、以下の資料が確認された。

表 5-3 知念補給地区及び周辺に関する環境関連情報の概要（NARA 収蔵）

年月日	場所	資料の種類	概要
1974年	—	写真	八重岳通信所の空中写真（通信支援部隊）。

#### 5.7 環境等に関する通常監視について

八重岳通信所及び周辺において、沖縄県による環境等に関する通常監視は行われていない。

出典：「昭和 51 年度版 環境白書」（1977、沖縄県）、  
「昭和 53～平成 16 年版 環境白書（昭和 52～平成 15 年度年次報告）」（1978～2005、沖縄県）、  
「環境白書【平成 16～26 年度報告】」（2006～2016、沖縄県）を参照